

## 教育実習 カルテ

# 教育実践での学び をポートフォリオに

教員養成課程では、**教職入門実習**(1回生必修)、**基本実習**(3回生、一部4回生必修)、**併修実習**(4回生選択)と、**学校インターンシップ**活動を通じて、4年間の中で、教育実践力を培っていきます。活動の都度、Live Campusのポートフォリオを活用し、省察することによって、学校園での体験を通して学んだこと・考えたことを、大学の学びに活かしていきます。

### 教育実習の 目標

#### 【幼児・児童・生徒への関わりと理解】

子ども理解・子どもの人権を尊重した関わり

#### 【組織や集団への関わりと理解】

学級づくりや集団づくりへの関わり・教職員組織への関わり

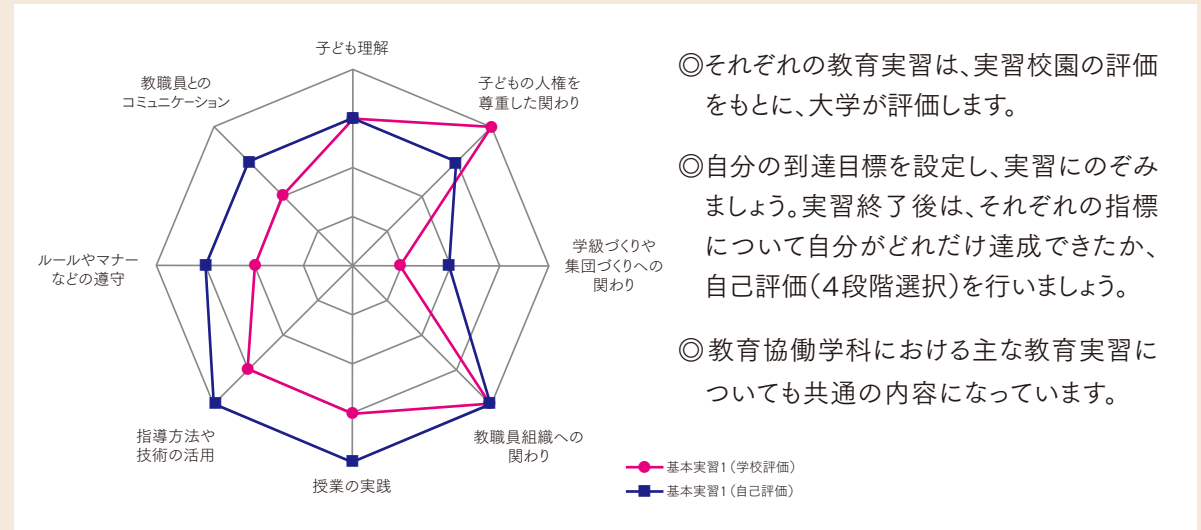
#### 【学習指導】

授業の実践・指導方法や技術の活用

#### 【実習生としての信頼性】

ルールやマナーなどの遵守・教職員とのコミュニケーション

教育実習カルテは、それぞれの教育実習に沿って作成しています。ここでは、教員養成課程の基本実習(小・中・高)用の教育実習カルテを例示します。



学校現場で学ぶこと



ポートフォリオをもとに大学の指導教員と面談

## 教師になるために必要な資質能力を身に付ける

生涯を通して日々成長を続ける教師であるためには、自らの意思によって自らの学びをデザインする力が必要となります。本学では、このような自らを育てる姿勢を培うため、履修カルテの活用を推進しています。履修カルテによって、これからの学修の目標を設定したり、学修の成果を蓄積したりしていくことで、自らの成長をふりかえり、次の目標の設定へと繋げることができます。

また、履修カルテでは、ふりかえりと目標の設定を効果的に行うことができるよう、教職に求められる資質能力を5つの指標と30の項目で提示しています。5つの指標と30の項目を手掛かりに、教科・教職科目、ボランティア活動等を通して学んだことをふりかえり、自らの到達点と課題を明らかにしましょう。

### 5つの指標

#### 1. 教職に必要な素養

- 教育の理念や教育に関する歴史及び思想、並びに教職の意義、教員の職務内容についての基礎的な理解ができています。
- 教職員や学校園外の専門家、家庭や地域等を含めた他者と連携し、協働して課題を解決することの重要性を理解している。
- 人権意識を有し、学校教育に関する社会的、制度的事項、学校安全に関する基礎的な知識や技能を身に付けている。
- 子どもを能動的、自律的な学習者として導くことの意義を理解している。

#### 2. 指導内容の理解と実践力

- 幼稚園の保育又は小学校の各教科及び所属するコースに対応する中学校・高等学校の教科や教科外の指導に必要な専門的知識・技能の基本を身に付けている。
- 学校教育における教育課程編成の意義と基本原理を理解し、教職員の配置や施設の維持管理の観点や教科横断的な視点をもって組織的に教育課程を編成の上、実施するとともに、学校園の実態に応じてカリキュラム・マネジメントを行うことの重要性を理解している。
- 子どもの興味・関心を引き出す教材研究を行いながら、学習指導や保育・授業の設計、実践、評価、改善を行う仕組みを構想することができる。
- 学習環境の整備ができ、また、アクティブ・ラーニングを取り入れた「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた学習者を中心とする指導計画の立案や保育・授業づくりができる。

#### 3. 子どもへの対応の理解

- 生徒指導の意義や理論を理解し、他の教職員や専門家等と連携し、児童生徒に応じた指導や集団指導を実践することができる。
- 教育相談の意義や理論と幼児・児童・生徒を支援するために必要となる基礎的な知識を有し、組織的な取り組みや学校園外の専門家等と連携する重要性を理解している。
- 進路指導やキャリア教育の意義を理解し、これらの視点からの授業改善やカウンセリングの充実に必要となる基礎的な知識を身に付けている。
- 子どもの心身の発達と学習の過程についての基礎的な理解ができています。
- 外国にルーツのある子どもや障がいのある子どもなど、特別な配慮や支援を必要とする子どもの特性や社会的包摂の理念を理解した上で、学校教員として対応するために必要となる知識や支援の方法を身に付けている。
- 道徳教育の理論及び指導法、特別活動の指導法及び総合的な学習や探究の時間の指導法について理解している。

#### 4. ICTや教育データを利活用する力

- 学校におけるICTの活用の意義を理解し、授業や学校園務等にICTを活用するとともに、幼児・児童・生徒のICT活用能力を育成するための保育や授業を構想することができる。
- 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けて、幼児・児童・生徒の学習の改善を図るため教育データを適切に活用することができる。

#### 5. 教職力量を自らひらく力

- 実践的な教育活動に参画し、幼児・児童・生徒と積極的にコミュニケーションをとることができる。
- 自らの学修を記録などに基づいて省察し、目標達成に向けて成長しようとする意欲を身に付けている。
- 生涯にわたる教師の成長の特性と学習のあり方を理解の上、学び続ける教師としての姿勢や態度を身に付けている。

### 30の項目

- ①教育の理念・教育史・思想の理解
- ②教職の意義
- ③人権教育
- ④他者との連携・協力
- ⑤学校教育の社会的・制度的・経営的理解・学校安全
- ⑥自律的な学習

- ⑦各教科など
- ⑧教科書・学習指導要領
- ⑨学習指導法
- ⑩基礎知識・基礎学力
- ⑪教育課程の編成及び方法に関する基礎理論・知識
- ⑫授業分析
- ⑬教材研究・指導計画
- ⑭指導技術・態度
- ⑮アクティブ・ラーニングについての理解
- ⑯アクティブ・ラーニングを取り入れた指導
- ⑰学習環境の整備

- ⑱生徒指導
- ⑲学習集団の形成
- ⑳幼児・児童・生徒の理解
- ㉑個別・集団指導
- ㉒進路指導・キャリア教育
- ㉓子どもの発達に関する理解
- ㉔特別な支援を必要とする子どもへの対応
- ㉕道徳教育・特別活動・総合的な学習の時間

- ㉖ICT活用
- ㉗教育データの活用

- ㉘社会人としての基本
- ㉙子どもに対する態度
- ㉚学び続ける力

養護教諭向けの「4つの指標」と「36の項目」は、別に設定されています。

# 教師になるための 学びの履歴と教育実習

□「ポートフォリオ」(履修カルテ、教育実習カルテ)とは? P1・6

□「4年間積み上げ型」の教育実習とは? P2

□卒業前の必修科目「教職実践実習」とは? P3

□教師になるために必要な資質能力とは? P7



教育実践活動において自己が目指す教師像への道筋を確認するツールとして「自分づくりカレンダー(教育実践活動)」を開発しました。

右のQRコードから参照して学校インターンシップや教育実習等に活用しましょう。



# 人にまっすぐ、 夢にまっすぐ。

## 履修 カルテ

# あなたの学びの軌跡 をポートフォリオに

### ポートフォリオで目標設定と自己評価を進めよう

Live Campusのポートフォリオにある「学修成果シート」と「履修カルテ」などを利用して、あなたの4年間の学びの軌跡を作りましょう。

「学修成果シート」には、半期ごとに自分の学修目標を立てて、記入しましょう。科目を修得すればその科目ごとにどのような学びがあったかをふりかえり、「履修カルテ(科目の履修状況)」に記録しましょう。学位プログラムの目標にどの程度到達しつつあるかを「成績ダッシュボード」のレーダーチャートで確認し、自分の強みや課題を自己分析しましょう。教員養成課程と教員免許取得を希望する教育協働学科の学生は、「履修カルテ(自己評価)」を活用して、教職に求められる資質能力の修得状況を確認しましょう。

4回生の必修科目「教職実践演習」ではこれらの履歴を用いて4年間の学びを指導教員と一緒にふりかえります。

このように、履修カルテは、学位プログラムが定めた専門性や実践力の修得に向けて、目標設定と自己評価を促すことであなたの学びを支援します。



### ポートフォリオで探究と省察を深めよう

教師ひいては自律した大人になるための学びには、決められた学修目標の達成に向かう学び以外にも、自分自身の問題関心に基づいて探究と省察を繰り返すという学びもあります。探究とは、「今の子どもたちは主体的に学ぶことができているか。子どもたちが学ぶ必要性を感じながら学ぶためには、どんな授業をしたらいいか。次の単元ではこんなふう導入を工夫して、子どもたちのモチベーションを高めよう」といったように、子どもたちのリアルな状態を見取って問題を発見し、その問題を探究するテーマを掲げて実際に試行錯誤することです。ただし、試行錯誤しているうちに、自分で設定した探究テーマに疑問が湧いてくる場合があります。たとえば「子どもたちのモチベーションを高めるためには学びの導入を工夫しなければならない」と思っていたけど、本当にそうかな?といったように、このように自分の考えに対して「本当にそうかな?」と考えることを省察と呼びます。

ポートフォリオは、試行錯誤の活動を記録に残し、時には探究テーマそれ自体を検討することを通して、探究と省察を支援します。

